

| 受験方式

一般選抜		教科	満点	英	国	日	世	政	数IA	数IIB	他	備考
教育	教育、社会	3	150	50	50	(50)	(50)	(50)	-	-	-	
	英語英文、複合文化（文科系A方式）	3	175	75	50	(50)	(50)	(50)	-	-	-	
	国語国文	3	175	50	75	(50)	(50)	(50)	-	-	-	

| 志願者推移 (数値は集計日時点による)

※志願者割合は各年度の志願者÷定員の値を比較(△:増加% ▼:減少%)

一般選抜		20'定員	20'志願者	21'定員	21'志願者	志願者割合	備考
教育	教育	教育—教育	921		1,440		
		教育—生涯教育	100	1,331	100	876	▼1%
		教育—教育心理		605		521	
		初等教育	20	509	20	378	▼26%
	国語国文		80	1,656	80	1,260	▼24%
	英語英文		80	2,022	80	1,959	▼3%
	社会	地理歴史	145	1,723	145	2,089	▼2%
		公共市民		2,069		1,630	
	複合文化		40	911	40	933	△2%

| 入試問題分析

| 英語

入試問題分析

問題形式は変わらないが、若干レベルが下がっている。長文読解では、早慶においてはやや易レベルと言える。文法的視点や語彙知識を問う問題も含まれる。代名詞が指す内容を特定させる問題も頻出。会話問題のレベルは、他大学と比べると高い。会話特有の表現などの知識は必須。

| 現代文

入試問題分析

大問二題(全8問-全9問・オールマーク)、大問(一)(二)ともに論説文。

出題形式は①：漢字問題(選択)/②：傍線読解問題(選択)/③：空欄補充問題(選択)/④：脱文補充問題/⑤：内容一致問題。

②が大半で、③も接続詞・副詞問題が出題されるなど、シンプルな出題形式。文学部と同様にオーソドックスな問題構成。文章の論旨と論理展開を正確に掴む必要がある点も文学部と共通している。早稲田現代文の導入として適しており、早稲田の他学部を受験予定でもまず教育学部の問題から取り組んでみるのが良い。

| 古典

入試問題分析

古文は、単語・文法問題は基礎～標準レベルの問題が大半。解釈問題も単語+文法で選択肢の絞り込みが可能。傍線部内に「指示語」があれば、指示語を特定することで正解に近づける。本学部では、形容詞や副詞の空所補充問題が頻出である。形容詞・形容動詞の場合は選択肢を吟味すること、副詞の場合は呼応の副詞に注意すると正解に近づける。また掛詞の指摘や文学史もよく出題されるので、こちらも覚えておきたい。漢文は、返り点・書き下し文・解釈問題ともに、基本語句と句形を理解していれば解ける問題が大半である。

| 日本史

入試問題分析

原始～近現代まで出題されているがバランスよく、古代・中世・近世・近現代・現代と出題されている。正誤問題と記述で構成された問題形式にも変化はない。文章による論述問題はない。正誤問題はほとんどが一つを選ぶ形式だが、一部に正解をあるだけ選べという設問があり、難易度が高い問題となる。また、それぞれの時代でテーマでの出題(地域史・思想史など)がされているので、テーマごとの整理が必要。

| 世界史

入試問題分析

例年、大問数は4題、解答数も50個。2021年度は全てマーク式になり、定番の記述式一問一答10問は消滅。例年、大問1・2がヨーロッパ史、3が東アジア史(中国)、4がその他の地域を扱うという問題構成をとるが、2021年度は、3でユーラシア各地、4で中国史を出題。さらに、消去法が使えない「すべて選べ」という問題が3つ出題された。この傾向が定着化するかはまだ分からないが、大きな変化の一つ。

年号が絡む問題は2019年度が15問、2020年度は6問(ただし、実質21個の年号を把握する必要があった)2021年度は7問。文化史は2019年度は50問中1問、2020年度は50問中2問、2021年度は50問中14問。過去に多く出されたことは何度もあるので、油断禁物。教育学部だからといって、教育関連用語が出るわけではない。教育関連用語は、2019年度は「ユネスコ」の1語のみ。2020年度は全くなかった。2021年度はヨーロッパの大学について1問のみ。

| 入試問題分析

| 政治経済

入試問題分析

空欄穴埋め、正誤・選択問題といった知識を問う問題が多くを占めているが、一部でグラフや問題文の読み取り問題が出題されている。昨年に比べて問題数が減少するとともに、記述での空欄穴埋め問題が見られず、すべてマーク式の問題形式となっていることから、全体的な難易度は低下したと思われる。知識問題が多く、基本的なものから細かいもの、時事的なものまで幅広い知識が要求されている。基本事項の知識を正確なものにするともに、用語集や資料集などで詳細な知識を補充し、新聞やニュース等で時事的な用語を拾って知識を補充しておく必要がある。

2021/4/1 更新

©2021増田塾